

EVANGELICAL THEOLOGY

53

January, 2024

Society, Culture and Christian Maturity

Editors

H. Minamino, T. Oba, N. Yamaguchi, K. Yamazaki-Ransom, T. Yoshida

CONTENTS

Foreword Takashi Yoshida

Featured Articles

Maturity of Followers of Jesus and Their Community in a Society
as Seen Through Japanese International Collaborations
..... Midori Yanagisawa

A Discussion on Maturity of Christian Social Ethic:
Remarking the Theology of John Howard Yoder
..... Masami Nakashima

The Cultural Expectation of the Japanese Church
from the Perspective of Literature Hironori Minamino

What is Maturity in the Roles of Men and Women? ... Stéphan van der Watt

Essay

Is "Leprosy" Included in the Bible's *Tsara'ath* and *Lepra*? ... Koji Yoshida

Members' Achievement Records

Published by

The Japan Evangelical Theological Society

福音主義神学

53

2024.1

社会・文化とキリスト者の成熟

目次

巻頭言 吉田 隆

論文

国際協力から示された社会におけるキリスト者と共同体の成熟 柳沢美登里

キリスト者の社会生活における成熟のテーマ
——ジョン・H・ヨルダーの神学の可能性 中島真実

教会における文化の可能性について——文学の視点から 南野浩則

男性・女性としての成熟とは何か ステファン・ファン・デア・ヴァット

研究ノート

聖書のツアラアト、レプラに「ハンセン病」は含まれるのか 吉田浩二

会員刊行文献目録 (2022 ~ 2023)

活動報告 (東部・中部・西部・全国)

論文執筆要項・賛助会員一覧

日本福音主義神学会

福音主義神学

53

社会・文化とキリスト者の成熟

日本福音主義神学会

巻頭言

吉田 隆

福音主義神学の“成熟”のために

すでに記憶の彼方になりつつありますが、2年前の2021年11月15日～17日、日本福音主義神学会第16回全国研究会議がZoomを用いた初めてのオンライン会議として行われました。今では普通に行われるようになったオンラインでの全国会議や講演会も、当神学会では初の試み。しかも参加費をいただく以上は失敗できないとのプレッシャーの中で、担当になった西部部会の責任者たちは入念なシミュレーションを重ねた上で前日から会場でスタンバイ。通常の全国会議以上の緊張感とプレッシャーの中で、手に汗握る初日を迎えたことを思い起こします。

この会議の準備にあたって準備委員会が最も腐心したのは、“オンライン”による“研究会議”をいかに実り多いものとするかということでした。講師たちが顔も上げずにただ手元の原稿を読み、参加者はひたすら画面を見て（あるいは見ずに！）退屈な時間を過ごすという形にならないためにはどうすればよいか。プログラムや講師の選定はもとより、研究テーマそのものをどうすればより深く、より興味深く（面白く）限られた時間で掘り下げることができるかを考えたのです。

そのために、①テーマを巡る論点をまずは準備委員自身が考えて洗い出し、②その論点を巡って異なる立場が明確になるように講師の方々には素案をお願いし、③その素案を元にさらに準備委員とやり取りをした上で最終稿を用意していただき、④それを参加者のみに事前に配信し、⑤当日は講師と応答者に簡潔かつ自由に語っていただき、⑥参加者にはブレイクアウトルームでの討論や

チャット機能を使つての質問など参加意識を高めていただく、という方法を取りました。

その結果、講師や応答者の皆様には通常の何倍もの負担をおかけすることになりました。諸先生方には、準備委員の一人として、この場をお借りして改めて心からの感謝を申し上げたいと思います。皆様の努力と協力のお陰で、会議そのものは実にスリリングで有意義なものになったのではないかと考えております。

会議のテーマを「キリスト者の成熟：教会・社会・文化」と決めた経緯については、前号（第 52 号）の巻頭言で準備委員会委員長の岸本大樹先生が書いておられるとおり、諸領域におけるキリスト者の人格的未熟さという問題に対し、「正しい神学的営みは、我々を人格的にも成熟させるのではないか？」というテーゼを立てたことに拠ります。とりわけ、福音派陣営にありがちなキリスト者の霊的・人格的成熟と神学的営為との乖離を、福音主義神学を営む我々が乗り越えて行く機会にしたいと願ったのです。研究会議では、メインセッションで教会（教会論）・社会（キリスト教倫理）・文化（宣教論）の諸領域での「成熟」について各々二人の講師と一人の応答者を中心に論じていただき、さらに分科会では聖書学・実践神学・組織神学の側面からも扱われました。

※

前号の『福音主義神学』では「教会とキリスト者の成熟」と題して、上記講演の中から五つの関係論文を掲載しましたが、今号ではその続きとして以下の四氏による論文を掲載しています――

柳沢美登里氏（東部・「声なき者の友」の輪）の論文は、長年にわたる国際協力の現場での経験を踏まえた貴重な論考です。キリスト者の指導者もまた権力濫用に陥る・「聖書信仰」が必ずしも人格的成熟を保証しないという“二重の衝撃”によって、社会におけるキリスト者とその共同体のあり方を根本的に考え直されたとのこと。21 世紀の現実世界における「キリスト者の成熟」とは何かを、「隣人愛」と「多様性尊重」という包括的な「神の国」概念から説いていきます。

中島真実氏（中部・一宮教会）は、「キリスト者の社会生活における成熟」とは何を扱うのかを分析した上で、この関係でしばしば用いられる「キリスト

者の社会的責任」という概念をリチャード・ニーバーとローザンヌ誓約などを比較しつつ、その“方向性”こそが問題であると指摘します。その上で、この点における「キリスト者」というアイデンティティの重要性を主張するジョン・H・ヨルダーの神学的倫理学をラインホルド・ニーバーの思想と対峙させて、「イエスは主である」との信仰告白の共同体形成が今日の社会においても重要な意味を持つことを明快に論じます。

南野浩則氏（西部・福音聖書神学校）は、「キリスト教的文化」とは何かを問いつつ、キリスト教的文化と日本文化という異質なもの同士が積極的関係を結ぶ可能性があること、その際に前者の成熟のためには後者との複雑かつ多様な関わりを理解し評価しなければならないと論じます。南野氏は、そのテストケースとしてキリスト教文学を取り上げ、特にキリスト者が文学に接する時の視点と成熟ある読み方とは何かを追及しています。

南アフリカの宣教師でもあるステファン・ファン・デア・ヴァット氏（西部・神戸改革派神学校）の論文は、同氏の博士論文で取り組まれた男性性についての神学的・牧会的研究を踏まえた論考です。「キリスト者の成熟」の聖書的定義をまず明らかにした上で、現代世界におけるジェンダーイデオロギーの中で、三位一体の「神の像」としての男性性と女性性が教会と社会において回復されることの重要性と課題について、日本の文化的文脈を考慮しつつ論じています。

以上の研究会議に関係する諸論文に加え、今号には、疫学研究者でもあった吉田浩二氏による聖書（特に新改訳聖書）における「ツァラアト」と「レブラ・らい病・ハンセン病」との関係についての興味深い論考を掲載しています。これまでの『福音主義神学』にはなかった「研究ノート」というカテゴリーによる初の投稿です。

論文までとは行かずとも、その一步手前の論考を投稿してくださることも実に有益であり、多くの示唆を得られます。今後、このカテゴリーでの投稿も増えますように願っています。

※

さて、「キリスト者の成熟」を巡る全国（オンライン）研究会議も終わりました。過去3年間のコロナ禍において、良かったことの一つは、全国諸教会や

牧師たちのインターネット配信の知識や技術が著しく向上したことでしょう。私のような機械音痴でさえ、普通に Zoom で会議や講演をこなすことができるようになったのですから。その一方で、しかし、オンライン技術は向上したものの、どれほど“福音に生きる術”や“人と向き合う術”において向上したか、はなはだ心許なく思うのです。

ヨーロッパ中世後期におけるペスト禍に怯えた人々は、“ars bene moriendi（よく死ぬ術）”から、やがて“ars bene vivendi（よく生きる術）”を渴望するようになりました。宗教改革運動は、その延長上に起こったのです。コロナ禍を経た今、キリストの教会は今度こそ死をも超える希望の福音に自らが生き、またそれを証する者とならねばなりません。そのためにも、福音主義神学が、キリストにある“ars bene vivendi”を追求する学として“成熟”することを切に求めたいと思います。

(神戸改革派神学校校長、日本キリスト改革派甲子園教会牧師)